



「寒いね」と言えば「寒いね」と答える人のいるあたたかさ

『サラダ記念日』に収録されている俵万智さんの短歌です。

この短歌には、読者から様々な反応が寄せられるそうです。田舎の両親との会話を思い出したという下宿生がいれば、結婚式のスピーチに使って好評だったという人もいます。消防署の人からは「この歌は、『声かけあって火の用心』の精神にぴったりです」と言われ、火災予防のポスターに使ってもらったそうです。

「暑いね」と言えば「暑いね」と……

先週から登校時の暑さも厳しくなりました。

笠田地区の子どもたちが通う交差点の立哨に向かうと、いつも見守ってくださっている地域の方が声をかけてきてくださいました。

「さっきまでセミが鳴っきょったんやけどね、あまりの暑さで、鳴かんようになってしもたんですよ。」

夏の代名詞・セミさえ活動を控えるような朝。子どもたちは、いい挨拶を響かせながら登校してきています。

それでもやはりこの暑さ。その上、6時45分に家を出て歩いてきている子もいます。日傘を差し、途中で水筒の水を飲みながらも、学校のそばを通る時には、だいぶ疲れている様子です。

「暑いなあ。」「はい。」「大丈夫?」「暑いですー。」



学校西側の交差点で立っていると、少ししんどそうな子どもが地域の方に手をとられてやってきました。私が引き取って学校まで一緒に歩こうとすると、その子はよほど不安だったのか、私の手を握ってきました。ここまで付いて来てくださったことが、この子にとって、どんなに心強かったことでしょう。

おそらく御自身の子どもでも孫でもないのでしょう。にもかかわらず、毎日こうやって付いて来てくださることに、頭が下がります。

夏の暑さは、昨年度の統合準備会の時から危惧されていました。子どもたちの登下校は大丈夫なのか。1年生が何十分もかけてその中を歩いて熱中症にならないのか。その心配が消えたわけではありませんが、保護者や地域の方々の付き添い、見守りにより、1学期を大きな事故なく終えられそうです。

ありがとうございました。

この朝を歌にするとしたら、「『暑いね』」と言えば『暑いね』と答える人のいるあたたかさ」とでもなるでしょうか。

「『寒いね』と言えば『寒いね』と——」、この歌からは様々な情景が思い浮かぶと、冒頭に述べました。俵万智さんの歌から私が思い出すのは、この夏の朝です。

